## <u>デイリーレポート</u>

船名	大島丸		情報発信日時			2025		年	11	月	30	日	12	時	00	分
現 在 位 置	航海中		時	分		栶	位									
		<lat.< td=""><td></td><td></td><td>N-</td><td><del>/ S</del></td><td>Lo</td><td>ng.</td><td>***********</td><td colspan="3">-</td><td colspan="3">E <del>/ W</del></td></lat.<>			N-	<del>/ S</del>	Lo	ng.	***********	-			E <del>/ W</del>			
	停泊中	12	時	00 分		概位					岡田港					
		<lat.< td=""><td>34</td><td>- 4</td><td>7.5</td><td>N-</td><td><del>/ S</del></td><td>Lo</td><td colspan="2">Long.</td><td colspan="2">139 -</td><td colspan="2">23.3</td><td colspan="2">E <del>/ ₩</del> &gt;</td></lat.<>	34	- 4	7.5	N-	<del>/ S</del>	Lo	Long.		139 -		23.3		E <del>/ ₩</del> >	
	錨泊中		時	分		栶	既位									
		<lat.< td=""><td></td><td>-</td><td></td><td>N-</td><td colspan="2">√<del>/ S</del></td><td colspan="2">Long.</td><td colspan="3">-</td><td></td><td>E/</td><td>₩&gt;</td></lat.<>		-		N-	√ <del>/ S</del>		Long.		-				E/	₩>
	操業中		時	分		栶	概位									
		<lat.< td=""><td></td><td>-</td><td></td><td>N-</td><td><del>/ S</del></td><td colspan="2">Long.</td><td colspan="2">-</td><td></td><td></td><td>E/</td><td>₩ &gt;</td></lat.<>		-		N-	<del>/ S</del>	Long.		-				E/	₩ >	
	観測中		時	分		栶	位									
		<lat.< td=""><td></td><td>-</td><td></td><td>N-</td><td><del>/ S</del></td><td colspan="2">Long.</td><td colspan="2">-</td><td></td><td></td><td>E/</td><td>₩&gt;</td></lat.<>		-		N-	<del>/ S</del>	Long.		-				E/	₩>	
本船状況気象海象	針路:	-	度	船速:		-	k	t	天候	:	b	С				
	風向:	N		風速:		1.0	m	/s	視界	:	7	7	Ë	₽		
	波高:	0.1	m	風浪階級	:	1			うねり階級			1				
乗船者 状況	乗組員	現在員:		19	名		健康	状態	:		良好			不良	-	
		摘要:														
	生徒	現在員:		12	名		健康	状態	:		良好			不良	-	
		摘要:														
	指導教官	現在員:		3	名		健康	状態	:		良好			不良	-	
		摘要:														
	アト゛ハ゛イサ゛ー スタッフ	現在員:		1	名		健康	状態	:		良好			不良	-	
		摘要:														
○★ 似新。	主名															

## ○本船動静

・11月29日15時55分岡田港入港

## 【学校側コメント】

昨日は予定を早めえて16時に岡田港入港着岸となりました。昨日のコメントで記述しましたように御 蔵島を過ぎた頃から風は次第に収まり、今航海最後の棒擦りも実施することが出来ました。全員で大き な声をだしてデッキを擦り洗い流す。甲板長からは「君たちのおかげでデッキが綺麗になった。ありがと う!」という言葉を頂きました。教官は常日頃から「掃除はきちんと丁寧に感謝の気持ちを込めてやり ましょう。」と言われています。実習船大島丸は実習生の船です。自分たちだけでなく、次に乗船する実 習生のために、そして後輩たちのために綺麗なままの大島丸を引き継いで行く…大事なことだと思ってお ります。